



手拍子をしながらサックスの演奏を聴く児童

まえさき サックスの音色に魅せられ Quatuor Bが白山小でアクティビティ

サックス四重奏団Quatuor Bが11月15日、白山小学校を訪れ、アクティビティを行いました。これは公共ホール音楽活性化支援事業として、前沢ふれあいセンターが助地域創造の協力で実施したものです。

この日は団員4人が5年生児童19人の前で「あまちゃん」のテーマソングなどを演奏したほか、サックスの音が出る仕組みや音の違いを解説。最後は同校の校歌の演奏に合わせて児童が合唱するなど、子どもたちは音楽の素晴らしさを間近で感じていました。



産直ころがの取り組みを調査する弘前大学の学生

こもがわ 衣川の地域づくりを学んで 弘前大生による地域生活調査

弘前大学教育学部の学生による「地域生活調査」が11月16日、17日の2日間、衣川区内で行われました。

同大学が毎年行っているこの調査に、農山村地域における地域づくりの先進的な取り組みを推進している同区が本市では初めて選ばれ、地域生活専攻の1年生39人などが参加。一行は、産直の運営や黒滝温泉の木質バイオマス発電の取り組みを調査した後、歴史講談や念仏剣舞などの郷土芸能を鑑賞し、農家レストランを訪れるなど、同区の地域づくりを吸収しました。



入館400万人目の記念品を受け取るミネ子さん

いさわ 心身ぽかぽかその数400万 焼石クアパークひめかゆ入館者400万人達成

焼石クアパークひめかゆが11月16日、入館者400万人を達成しました。

400万人目に入館したのは、衣川区の佐々木ミネ子さん（78）。たまたま友人に誘われて訪れたところ400万人目を射止め、記念品として同施設のペア宿泊券と前沢牛が贈られました。ミネ子さんは「びっくりしました」と驚きながらも喜びの表情。施設を運営する（株）ひめかゆの社長である小沢昌記市長も祝福し、利用者の日頃の愛顧に感謝しました。



精巧な模型に子どもたちは興味津々

みずさき 子どもの夢乗せ模型が疾走 鉄道フェスタ2013

岩手鉄道模型仲間の会（佐藤徳代会長）が主催する「鉄道フェスタ2013」が11月23日、24日の2日間、市文化会館で開かれました。会場には電気機関車や貨物列車など多彩な鉄道模型が勢ぞろいし、建物や風景を緻密に再現したジオラマを疾走。会場の照明を落とし、ライトアップした模型を走らせる時間帯も設けられ、訪れた多くの子どもたちや鉄道ファンを楽しませました。水沢区姉妹町の藤原美空ちゃん（5）は「本物みたいだった。また来たい」と興奮しながら話しました。

えさし リンゴの詰め放題が大人気 第4回江刺りんごまつり



リンゴを見定めて袋に詰め込む来場者

第4回江刺りんごまつり（岩手江刺農協、同農協りんご部会主催）が11月30日、12月1日の2日間、えさし藤原の郷駐車場で開催され、多くの来場者でにぎわいました。

傷や色むらなどで正規品出荷できない「訳ありリンゴ」の詰め放題が人気で、来場者はお買い得のリンゴを手に取りながら品定め。サンふじやシナノゴールドなど、熟したリンゴを袋に詰め込んでいました。

恒例の第11回江刺りんご皮むき大会では、手のかじかむような寒空の中、参加者は真剣な表情で競い合いました。優勝した小田島周子さん（61）は「昨年に続いて2回目の参加。昨年は2位でしたが、こっちは優勝できてうれしい」と喜びをかみしめていました。

まえさき 遊んではしゃいで友達作り 前沢区小学校7校交流学习

前沢区内7小学校の統合を前に、児童の交流を深めることを目的とした交流学习会が11月8日、13日、20日、1年から5年までの各学年1回ずつ行われました。

13日は前沢スポーツセンターを会場に、2年生児童117人が交流。じゃんけんや風船を使ったゲームで遊びながら、26年度から同級生となる仲間との友情を育みました。特に盛り上がったのは、相手陣地に風船を入れる「風船ぼいぼい」。子どもたちは「来年また会えるのが楽しみ」と笑顔をあふれさせていました。



子どもたちの笑顔がはじけた「風船ぼいぼい」



エイズ予防のリーフレットを配る学生ボランティア

みずさき 学生がエイズの予防を啓発 エイズ予防キャンペーン

奥州保健所は、12月1日からの「世界エイズデー」を周知・啓発するエイズ予防キャンペーンをJR水沢駅で始めました。駅構内にHIV（エイズウイルス）感染者への理解と支援のシンボルであるレッドリボンを付けた高さ約2・5mのツリーを展示。また、水沢学園看護専門学校の学生ボランティア7人が、リーフレットなどを駅利用者に配布しました。ボランティアの同校1年、高館咲子さん（19）は「これを配ることで少しでもエイズに感染する人が減ってくれば」と語りました。